

東大・京大合格速報 / 佐藤愛子×三田佳子“卒母論”

週刊朝日

新型肺炎、風邪に
効かない抗生物質

東京五輪、パラリンピック総力特集
北島康介、野口みずき…
金メダルの瞬間

追悼 名物コラム
「野村克也の目」秘話

2・28
410円
山内憲介

コロナウイルス 徹底検証
デマと真実40問

パラスポーツ

っておもしろい!



ブラインドサッカー ボッチャ



車いす

写真左からアイマスクをしてボールを投げるブラインドサッカー。カラーボールを投げるボッチャ。競技用の車いすです。スラロームに挑戦。撮影：大野洋介

2020年東京パラリンピックの開幕まで約半年五輪に比べれば、観客動員数も劣るかもしれない。でも、おもしろい競技がたくさんある。まずはやってみないことには、その奥深さは伝えられないだろう。そう思い立った記者は2月2日、パラスポーツの体験会に挑戦した。

足を運んだのは、東京・足立区総合スポーツセンターで開催された「障がい者

スポーツフェスティバルinあだち」だ。休日とあって親子連れが多く、小学生の参加者が目立った。

数あるブースのなかで、整理券を配るほどに人が集まったのはブラインドサッカー（ブラサカ）。パラリンピックでの競技名は5人制サッカーだ。視覚障害者のために考案されたスポーツで、ルールはサッカーやフットサルとほぼ一緒。衝立で仕切られた、フットサルと同じ広さのコートでボールを奪い合う。

健常者であるゴールキーパー以外の選手は、視覚障害の程度によって三つのクラスに分けられる。全盲、ほぼ全盲の選手はB1、弱視の選手はB2とB3（視力と視野の程度で振り分

け）となる。5人制サッカーに出場できるのはB1クラスで、アイマスクを着用する。ボールには鈴が入っていて、転がる際に鳴る音を頼りに位置を把握する。いざ体験。記者はフットサルを少しかじっており、多少の自信があった。だが、アイマスクを着けると、勝手が違った。距離感を全くつかめない。鈴の音を頼りにしても空振りばかり。「半歩だけ右」「行きすぎ」と周囲は指示してくれるのだが、恐る恐る足を出してもボールの位置がわからない。まぐれで足に当たろうものなら、ボールがどこにいったのか再びわからなくなる。何かにつかかってしまうのではという恐怖心もあり、立ちすくんでしまう。

そして、意外と鈴の音が聞こえない。周囲の雑音と混ざるとお手上げだ。そのため、競技中は観客も含め、声を出したり音を鳴らしたりするのは禁止。静寂がルールだ。日本ブラインドサッカー

競技によっては選手同士がガツンとぶつかり合う。装甲車のような重厚な車いすを想像したが、座ってまじろ感じたのが「軽さ」だ。体を固定するため、ベルトで腰と足を締める。だが、ブレーキがないので、座っているだけなのにゆらゆらと車いすが動いてしまう。そして進む際にはあまり力がいらぬ。ハの字形のタイヤの両脇にあるハンドリムを軽い力で回すとスリットが進む。回転も容易だ。選手の強靱な上半身や鍛え抜かれた二の腕を想像して、力強く回さなければいけないと思いついたが、これは意外な点だった。

挑戦したのはスラローム。複数のパイロンの間を縫って走行する。右に曲がりたい場合は左側のタイヤを回し、左に曲がりたい場合はその逆。これがうまくいかず、パイロンにぶつかってしまったり人々を驚かせぬ方向に行ってしまう人が多かった。車いすが「軽い」のは競技者にとってメリットだ。

1994年リレハンメル冬季大会からパラリンピックを取材、撮影するカメラマンの清水一二さんは、車いす競技についてこう語る。「例えば車いすバスケットなら、車輪を操作しながらボールを運んでシュートを打つ。ボールを持ち上げれば、車輪は動かさなければならぬ。鮮やかにプレーします。天才的だし、なんてかっこいいんだと思えます」

観戦の際には選手の手がさわぎにも注目したい。次にボッチャを体験

協会スタッフとして指導にあたった辻一幸さん(37)も競技者だが、最初は戸惑ったという。「人や物との衝突が怖くて、動くことさえ難しい。選手顔同士がぶつかることもさらにあります」

けがが絶えない肉弾戦。その魅力はどこにあるのか。「一流選手になると、人が移動したときに流れる空気を感ずること、どこに障害物があるかわかると思います。南米のチームなどは、見えているんじゃないかというほどに陣形を崩さず、鮮やかに選手間の距離を保って動きます。見えないことがハンデイとは思わせないプレーを見てほしいです」

次いで向かったのは競技用車いすの体験だ。パラリンピックでは、車いす競技として車いすバスケットボールや車いすフェンシング、車いすラグビー、車いすテニスがあるほか、陸上や卓球などで車いすの種目がある。

使われる球は革製で、野球の硬球より少し大きいくらい。お手玉のように柔軟性があり、重さは300gほどだ。体験したのは3人対3人の団体戦。記者は60代の女性の団体戦。記者は60代の女性の団体戦。記者は60代の女性の団体戦。

朝日新聞縮刷版 12月号 中村哲医師、アフガン支援中に銃撃され死亡 COP25、温暖化策強く打ち出せず閉幕 元TBS記者に賠償命令 伊藤詩織さんへの性暴力 好評発売中! 定価 6930円(税別) ●お近くの書店またはASA(朝日新聞販売所)にお申し込みください。